わか草

第３８回　平成２８年４月１日
発行 東京都立東部療育センター
広報委員会
東京都江東区新砂３-３-２５

成人式

一月十三日に成人式が執り行われました。今年は、病棟二名、通所五名の計七名の方が新成人になりました。式では多くのみんなに囲まれて、盛大な式になりました。

新成人おめでとう！

新成人とご家族、病棟スタッフと記念撮影

修了式

三月二十九日に乳幼児通所にて、修了式が行われました。今年は一名のお友達とお別れすることになってしまいました。さみしいですが、みんなで元気にお別れすることができました。新しいところでも元気でね。

みんな仲良く入ろうね
（パラシュートの下で）

NEW ミュージカル

二月六日に、当センターでミュージカル「正太と願い石」が初めて上演されました。公演して頂いたのは、ＮＰＯ法人　キャトル・リーフの皆さんで、数々の病院や特別支援学校、高齢者福祉施設などで公演をされているそうです。

参加した入所者の中には、ミュージカルを初めて体験された方が多く、とても楽しい時間を過ごすことができました。

最後に、出演された役者の皆さんと一緒に記念撮影を撮ることができました。

出演して頂いた役者の皆さんと記念撮影
（プレイルームにて）

卒業式

三月十八日に都立墨東特別支援学校「第二十九回高等部卒業式」があり、三名の卒業生が最後のスクリーニングを兼ねて参加することができました。感涙を流す生徒もいました。また、三月二十三日にはプレイルームにて、かもめ分教室「第九回卒業を祝う会」がありました。小学部からは二名、高等部から四名の卒業生が、院長先生はじめセンター職員の皆様や保護者・後見人の皆様、教員一同の祝福を受け、次のステージへの晴れやかな旅立ちの日になりました。

かもめ分教室　梅原　彩

卒業生を囲んで
（都立墨東特別支援学校にて）

東部療育センターに勤務して

医局　太田　秀臣

入所者を囲んで（写真右端　太田先生）

平成二十三年七月より当センターにお世話になり、約五年が経ちました。

月日のたつのは早いもので、あっという間にすぎてしまいました。この五年間を私なりに振り返ってみます。

医師生活も四十年以上になりますが、医学部卒業後、小児科医となり、一般小児科診療のみを続けてきました。重症心身障害児・者施設での診療は初めての経験でした。

入所者の多くは寝たきりの状態で寝返りも出来ない方達がほとんどです。人工呼吸器装着が必要な入所者、気管切開が必要な入所者、経口摂取が困難で胃瘻・腸瘻造設が必要な入所者、固形食の摂取が困難で流動食やペースト食しか摂取できない入所者等、実に多彩で困難な状況におかれた入所者を目の当たりにして、今までにほとんど経験したことのない診療を始めました。

○人工呼吸器の設定はどうか

○注入する栄養剤の種類と必要カロリーに応じた一日量と回数はどうか

○一日の体位交換の回数やベッド上での最適な姿勢の選択

○リハビリテーションの回数と目標設定

○毎日の生活リズムのとり方

○感染症、呼吸器疾患、消化器疾患、骨折、皮膚疾患などの併発症のケア

病棟にて（右端　太田先生）

このように数多くのケアを必要とするため、多職種によるチーム医療と療育が必要であることを強く印象付けられました。

また、入所の方達の障害の原因が実に多彩であること（分娩異常、先天奇形、染色体異常、先天性代謝異常、脳外傷後遺症、難治性てんかん、極小未熟児、進行性筋疾患、脳脊髄変性疾患、急性脳症など）。

このような原因により、ケアに必要なことも様々であるため、チームでの取り組みが重要であると強く感じています。

以上簡単ですが、私の現在の気持ちを述べました。

平成二十八年度　事業計画

当センターは、今年で開設十一年目に入ります。今年度も引き続き、全国重症心身障害児（者）を守る会の「最も弱いものをひとりももれなく守る」という基本理念の基に、手厚い医療・看護と介護が必要な都内の超（準超）重症児を積極的に受け入れるとともに、区部東部地域の障害児を支援する中核的施設としての役割を担っていきます。年々増加傾向にある超（準超）重症児を支援するため（当センターでの努力は申すまでもなく）、行政や地域関係機関との連携も図りながら対応を進めていきます。

実施規模は、これまでと同様に入所・入院は、長期入所九十床、短期入所二十四床、医療入院六床とし、通所は、成人、乳幼児合わせて一日三十五人（成人と乳幼児の枠は弾力的に運営します）とします。外来は一日百人で運営します。医療安全や感染症予防には特に注意を払い、個々の利用者様の病状や年齢、成長に合わせて生活の質の向上を目指した療育に努めます。

また、特に地域支援として、二十七年度より試行を始めた在宅重症心身障害児（者）への訪問診療を継続するほか、今年度より新たに、保育所等訪問支援事業を開始し、保育所等を利用中の障害児に対する支援や地域の保育所等の安定した利用の促進に努めます。また、地域関係機関との連携を一層密にして、研修会の開催など療育に関する知識や技術の共有を図る機会を広げてまいります。

このほか、虐待防止や防災対策にも力を入れ、万が一に備えて日頃から利用者の安全確保が図れるように対策を講じていきます。

今年度も、ご家族や地域の関係機関、第三者等から広く意見を伺いながら、全職員が一致協力してセンターの運営向上に努めていきます。

平成二十七年度　福祉サービス第三者評価　結果概要

二十七年度は、「NPOサービス評価機構」に依頼して第三者評価を行いました。評価方法は、定められた評価基準と手順を基に行われ、場面観察やご家族の皆様・職員のアンケート結果なども評価の参考にしています。ここでは、全体の評価講評について報告します。

「入所」

（特に良いと評価された点）

①医師やリハビリテーションなどの専門職と協力し、センター内外で利用者が楽しめる活動を豊富に提供している。

②感染防止対策チームによる病棟環境ラウンドなどを実施し、感染予防に取り組んでいる。

③呼吸ケアチームを発足し、人工呼吸器や気管切開の方々への適切なケアを行い、利用者の生命を守っている。

「通所」

（特に良いと評価された点）

①季節行事やバスハイク等のイベントを通して、家族も一緒に非日常を楽しむ機会を作り出している。

②地域の関係機関と連携を図りながら、在宅での生活を継続できるよう支援している。

③感染防止対策チームや呼吸ケアチームのラウンドで、利用者の安全な生活を確保している。

「入所」

（さらなる改善が望まれる点）

①家族と施設の意見交換の場の設定や運営について、さらなる充実を期待する。

②利用者の安全確保のため、夜間等の職員体制における検討を期待したい。

③療育情報の地域への発信や障害児ケアの専門性を地域還元していくための、より一層の取組みを期待したい。

「通所」

（さらなる改善が望まれる点）

①利用者の重度化や利用者数の増加の中、日常生活を楽しむ時間をどう確保していくのかが今後の課題となっている。

②利用者の生活の幅を広げるため、地域との交流に関して、より一層の取組みを期待したい。

③療育情報の地域への発信や障害児ケアの専門性を地域還元していくための、より一層の取り組みを期待したい。

今後、この評価を踏まえサービスの向上に努めてまいります。詳細については、外来、病棟でファイルが閲覧できます。また、インターネット「福祉ナビ」でもご覧いただけます。

（事務次長　佐藤）

研究発表　第八回院内研究報告会

今回は、口頭発表が十一題となり、研究・改善のテーマの報告がありました。有効性の高い研究や着眼点がよく、今後の研究に期待が持てる内容等が多くありました。発表時間は七分でその後、質疑応答を行いました。

審査は抄録、発表資料、発表内容、質疑応答をポイントとして、審査委員により総合的に評価を行いました。

（庶務係　大野）

【最優秀賞】

「骨折予防に有効な栄養摂取方法の検討」

栄養科　村松　かおる　さん

【優秀賞】

「訪問健康診査の現状と課題　～療育相談をとおしての家族支援～」

東部訪問看護事業部　中澤　真由美　さん

【敢闘賞】

「かかりつけ医について」

地域療育支援室　後藤　知江　さん

【特別賞】

「トラキオマスクと人工鼻の比較」

二階南病棟　中川　恵子　さん

「看護師の手指消毒衛生遵守の実態と意義」

二階南病棟　中山　忍　さん

受賞者の皆さんと加我院長（下列右から三番目）

シンポジウム

「地域における重症心身障害児（者）等の在宅医療支援の現状と課題」

シンポジウム会場にて（東京都江東区）

平成二十五年からの三年間の事業として東京都重症心身障害児（者）在宅医療ケア体制整備モデル事業を実施してきました。事業最後の締めくくりとして今回は、江東区医師会との共催で、シンポジウムを開催しました。地域内で実施している各種事業や医師会での取り組みについての講演、また全体でのディスカッションを通じて、地域の重症心身障害児（者）等の在宅医療の実情を明確にし、課題を抽出することを目的としました。

講演は、都立墨東病院小児科の伊藤昌弘先生（小児等在宅医療連携拠点事業）、江東区医師会の浅川洋先生（小児等在宅療養推進区市町村支援事業）、当センターの岩崎副院長（当モデル事業）から各種事業についての報告、その他地域での取り組みや現状について、墨田区医師会の鈴木洋先生、江戸川区医師会の津田隆先生から報告いただきました。

今回は医師、看護師に加え、行政・保健所関係者、相談支援専門員など多くの職種の参加があり、総勢で七十八名もの方に出席いただきました。重症心身障害児（者）等の在宅生活の支援に関わる多くの方々と、地域内の現状や情報を共有する貴重な機会とする事ができました。

（地域療育支援室）

ボランティア紹介

二階南病棟ボランティア　井上　敏子さん

Aさんのレッツ・チャット（意思伝達装置）の入力サポートのボランティアとして東部療育センターに通い始めて、四年程経つかと思います。あまりお役に立っているとも思えませんが、私は、自身が色々と刺激を受けるので、楽しみながら通っています。センターのみなさん、障害者のみなさんの積極的な取り組み、心構えには驚いてしまいます。

これまで、Aさんが風邪などをひいて活動がお休みになることはありませんでした。Aさんが、体に気をつけていることはもちろんでしょうが、職員の方々の注意と気遣いがあるからこそと思います。という訳で、Aさんとお互いに元気に、レッツ・チャットを楽しんでいます。障害があっても、こんなことが出来るのだということを、世間の人々に、もっと知ってもらいたいですね。

もうすぐ私も、後期高齢者です。障害者が、高齢者が、普通に認められる世の中になるといいですね。

東部あれこれ

一月から三月の話題です。

【一月】

元旦は天候に恵まれ各地で初日の出を拝むことができました。センターでもお正月料理で新年を祝いました。四日は加我院長が年頭挨拶で、十年を節目として更に療育の向上に努めるよう訓示されました。

十三日には通所と病棟で成人式が行われ七名の新成人を祝福しました。

また、かもめ分教室では恒例の餅つき大会を病棟で行い、つき立ての餅を皆で賞味しました。

【二月】

一月下旬から日本列島は猛烈な寒波に襲われましたが、節分には各病棟、通所で元気に豆まきをし、厄払いと健康を願いました。

今年の冬はインフルエンザやノロウィルス等の大きな感染もなく過ごすことができました。

十四日には、春一番が吹いたものの寒の戻りもあったりして、衣服の調節には苦労しました。

【三月】

三月は卒業式のシーズンです。二十三日にはかもめ分教室の卒業を祝う会が、二十九日には乳幼児通所の終了式がそれぞれ行われ、卒業・終了を祝うとともに四月からの新たな出発を激励しました。

桜が見事に咲き誇る中で新年度を迎えます。新年度も皆で力を合わせて、センターの発展のために取り組んでいきましょう。

四月から入職された皆さんです。

◇**看護師**

伊藤　あゆみ　さん
横山　真由美　さん
具志堅　恵　さん
平川　明子　さん
安達　万葉　さん
岡崎　璃花　さん
中田　舞　さん
大久保　治代　さん

◇**保育士**

阿部　麻里奈　さん

◇**介護福祉士**

吉野　公恵　さん

◇**理学療法士**

田中　祐貴　さん

◇**言語聴覚士**

中山　陽子　さん

◇**MSW**

渡邊　正樹　さん

◇**事務**

加藤　智恵　さん
加藤　亜衣　さん

編集後記

まだまだ風の冷たさは、厳しいのですが、一日一日と日差しが強くなり桜の花からツツジ、ハナミズキへと春の色が移ろいでいくこの季節が大好きです。三月は卒業や卒園、四月は新しい利用者の方や職員が入り、新たな一年が始まる季節であり、また、新たな希望が芽生える季節でもあります。職員皆が一致協力し、新たな希望を膨らませていきましょう。

←これまでのわか草をご覧になりたい方はこちらからどうぞ